Agilent N5181A MXG
アナログ信号発生器

Data Sheet

製造に最適化された性能

- 高速スイッチング速度
- 容易なメンテナンス

Agilent Technologies

目次

定義 3
周波数 4
振幅 6
信号純度 11
アナログ変調 13
- 周波数変調 13
- 位相変調 13
- 振幅変調 13
- パルス変調 14
- 高速パルス変調 14
- 内蔵アナログ変調源 15
- 外部変調入力 15
- 同時変調 15

一般特性 16
オーダ情報 19
関連カタログ 19
- アプリケーション・カタログ 19
- 製品カタログ 19

定義

仕様：校正済み機器の保証される性能を表し、0～55 ℃の動作温度範囲に最低2時間保管し（特に注記がない限り）、45分間のウォームアップ時間後に有効です。測定の不確かさを含みます。本ドキュメントに記載されたデータは、特に注記がない限り仕様です。

代表値：製造された機器の80 %が満たす特性性能を表します。このデータは保証されず、測定の不確かさを含まず、室温（約25 ℃）でのみ有効です。

公称値：予測される平均性能、またはデザインにより性能が決まるデータ（50 Ω コネクタなど）。このデータは、保証されたデータではありません。

実測値：デザイン段階で測定されたデータ（振幅ドリフト対時間など）。このデータは室温（約25℃）での測定値で、保証されたデータではありません。

注記：すべてのグラフは、特に注記がない限り、室温での複数の機器からの実測データです。

周波数

レンジ

オプション501	100 kHz～1 GHz
オプション503	100 kHz～3 GHz
オプション506	100 kHz～6 GHz

最小周波数 100 kHz [1]

分解能 0.01 Hz

位相オフセット 公称0.01° 刻みで調整可能

周波数バンド[2]

バンド	周波数レンジ	N
1	100 kHz～＜250 MHz	0.5
2	250 MHz～＜375 MHz	0.125
3	375 MHz～＜750 MHz	0.25
4	750 MHz～＜1500 MHz	0.5
5	1500 MHz～＜3000.001 MHz	1
6	3000.001 MHz～6000 MHz	2

スイッチング速度[3、4]

タイプ	標準	オプションUNZ
SCPIモード	≦5 ms（代表値）	≦1.15 ms
リスト／ステップ掃引モード	≦5 ms（代表値）	≦900 µs

1. 特に記載されている場合を除いて、250 kHzより下での性能は保証されません。
2. Nはドキュメント内で一部の仕様の定義に用いられる係数です。
3. SCPIコマンドまたはトリガ信号の受信から、周波数が最終周波数の0.1 ppmまたは100 Hzのうち大きい方の範囲内に達し、振幅が0.2 dB以内でセトリングするまでの時間。
4. 500 kHz未満の周波数を起点または終点とするスイッチングの場合、振幅が0.2 dB以内にセトリングするまでに追加の時間がかかる場合があります。

確度

±エージング・レート
±温度効果
±電源電圧効果

内部タイム・ベース基準発振器エージング・レート

≦±5 ppm/10年、＜±1 ppm/年

温度効果

±1 ppm（0～55 ℃）

電源電圧効果

±0.1 ppm（公称値）、5 %～－10 %（公称値）

基準出力

周波数	10 MHz
振幅	≧＋4 dBm（公称値）、50 Ω負荷に対して

外部基準入力

入力周波数	標準	オプション1ER
	10 MHz	1～50 MHz（0.1 Hzの倍数）
ロック・レンジ	±1 ppm	
振幅	＞－3.5～20 dBm（公称値）	
インピーダンス	50 Ω（公称値）	

デジタル掃引モード

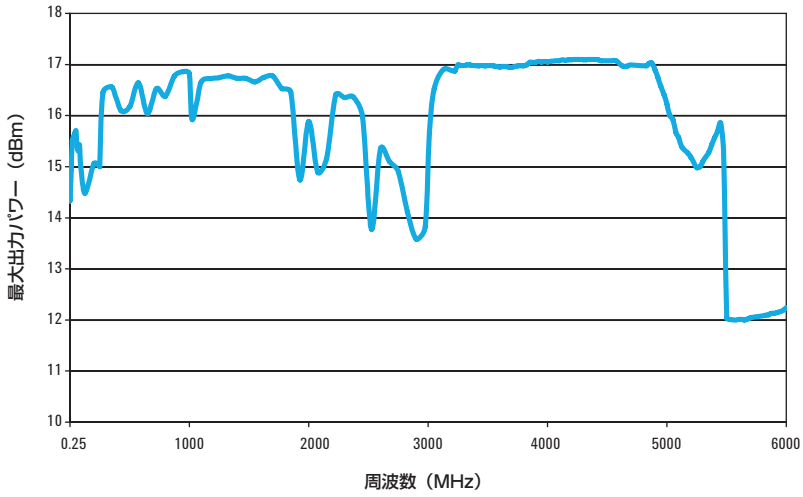
動作モード	ステップ掃引（等間隔または対数間隔の周波数ステップ） リスト掃引（周波数ステップの任意リスト） 振幅も同時掃引可能 詳細については振幅の項を参照
掃引範囲	機器周波数レンジ内
待ち時間	100 μs～100 s
ポイント数	2～65535（ステップ掃引） 1～1601（リスト掃引）
ステップ変化	リニアまたは対数
トリガ	フリーラン、トリガ・キー、外部、タイマ、バス（GPIB、LAN、USB）

振幅

出力パワー

レンジ[1]	標準	オプション1EQ[2]
100 kHz～250 kHz[3]	－110～＋4 dBm	－127～＋4 dBm
＞250 kHz～2.5 GHz	－110～＋13 dBm	－127～＋13 dBm
＞2.5 GHz～3.0 GHz	－110～＋10 dBm	－127～＋10 dBm
＞3.0 GHz～4.5 GHz	－110～＋13 dBm	－127～＋13 dBm
＞4.5 GHz～5.8 GHz	－110～＋10 dBm	－127～＋10 dBm
＞5.8 GHz～6 GHz	－110～＋7 dBm	－127～＋7 dBm

最大有効出力パワー



分解能 0.02 dB（公称値）

ステップ・アッテネータ 0～130 dB、5 dBステップ、電子式

コネクタ 50 Ω（公称値）

SWR[4]

≦2.1 GHz	1.4:1（代表値）
＞2.1 GHz～4 GHz	1.5:1（代表値）
＞4.0 GHz～5.6 GHz	1.7:1（代表値）
＞5.6 GHz～6 GHz	2.0:1（代表値）

最大逆電力

最大DC電圧	50 Vdc（公称値）
250 kHz～6 GHz	2 W（公称値）

1. 20 ℃～30 ℃の仕様。この範囲外の温度では、最大出力パワーは代表値で0.2 dB/℃減少します。
2. オプション1EQ付きの場合－144 dBmまで設定可能ですが、－127 dBmより下では保証されません。
3. 100～250 kHzの仕様は、シリアル番号が47400000以上で終わる本体に対して適用されます。シリアル番号がこれより小さい場合は、出荷時に添付されていたデータ・シートを参照してください。
4. SWR値は、シリアル番号が47400000以上で終わる本体に対して適用されます。シリアル番号がこれより小さい場合は、出荷時に添付されていたデータ・シートを参照してください。

スイッチング速度[1]

タイプ	標準	オプションUNZ
SCPIモード	≦5 ms	≦750 μs
リスト／ステップ掃引モード	≦5 ms	≦500 μs

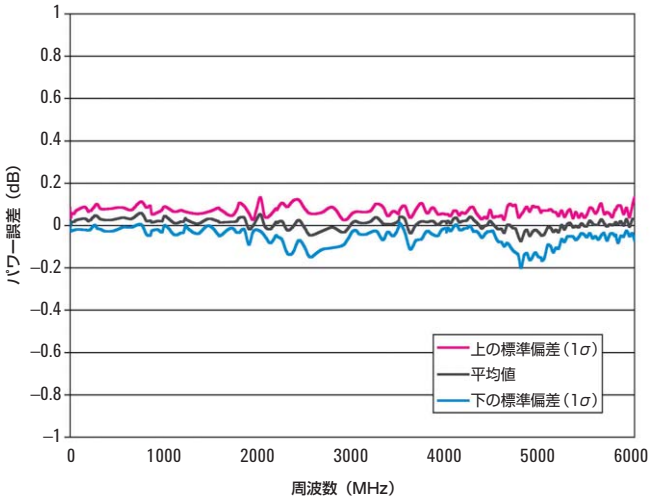
絶対レベル確度[2] [ALCオン]

	標準		オプション1EQ
	+7[3] dBm～−60 dBm	<−60 dBm～−110 dBm	<−110 dBm～−127 dBm
100 kHz～250 kHz[4]	±0.6 dB	±1.0 dB	−
>250 kHz～1 MHz	±0.6 dB	±0.7 dB	±1.7 dB
>1 MHz～1 GHz	±0.6 dB	±0.7 dB	±1.0 dB
>1 GHz～3 GHz	±0.7 dB	±0.9 dB	±1.4 dB
>3 GHz～4 GHz	±0.8 dB	±0.9 dB	±1.0 dB
>4 GHz～6 GHz	±0.8 dB	±1.1 dB	±1.3 dB

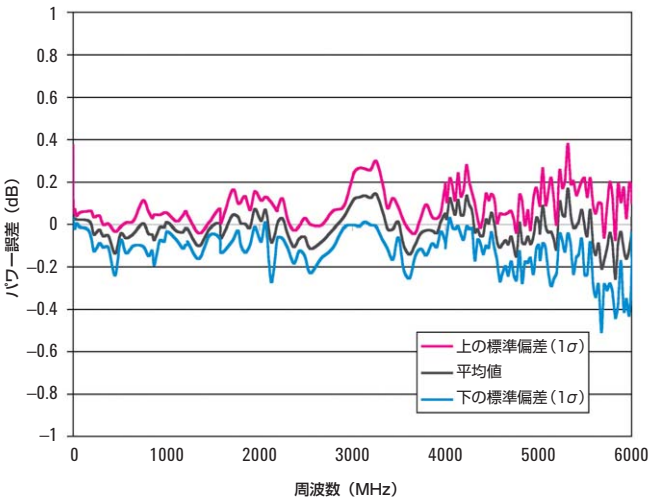
1. SCPIコマンドまたはトリガ信号の受信から振幅が0.2 dB以内にセトリングするまでの時間。シリアル番号が47400000より小さい値で終わる本体の場合は、上記のスイッチング速度はパワー・レベルが<+5 dBmの場合に対して仕様化されています。
2. 20 ℃～30 ℃の仕様。この範囲外の温度では、絶対レベル確度は0.01 dB/℃（周波数≦4.5 GHz）および0.02 dB/℃（周波数>4.5 GHz）悪化します。
3. レベル確度は、+7 dBmまたは最大仕様出力パワーのいずれか小さい方に対して仕様化されています。
4. 100～250 kHzの仕様は、シリアル番号が47400000以上で終わる本体に対して適用されます。シリアル番号がこれより小さい場合は、出荷時に添付されていたデータ・シートを参照してください。

絶対レベル確度［ALCオフ、ALCオンを基準とした値］　　±0.35 dB（代表値）

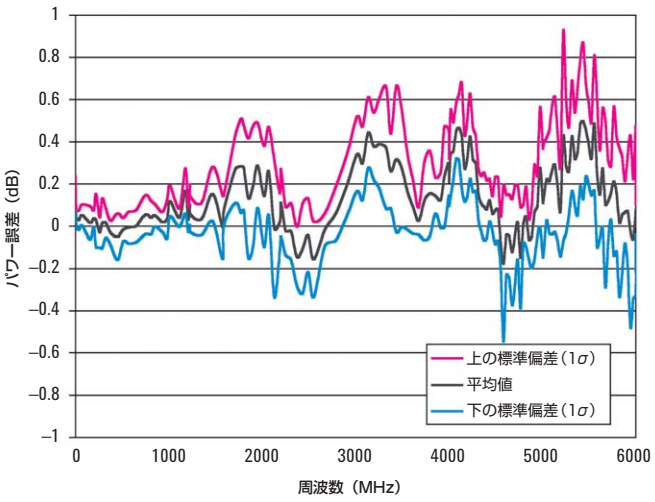
－110 dBmでのレベル確度

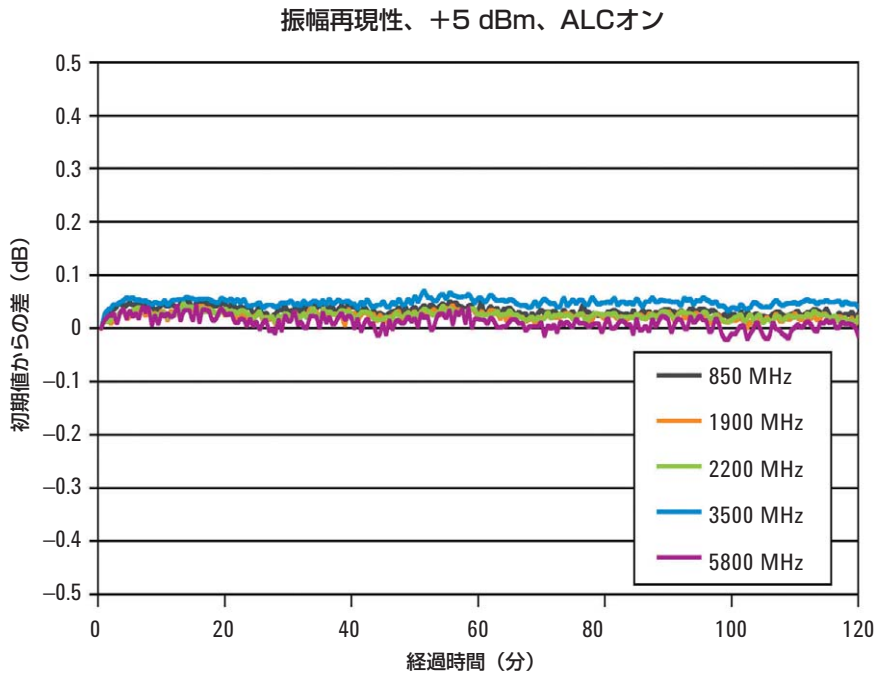


－130 dBmでのレベル確度

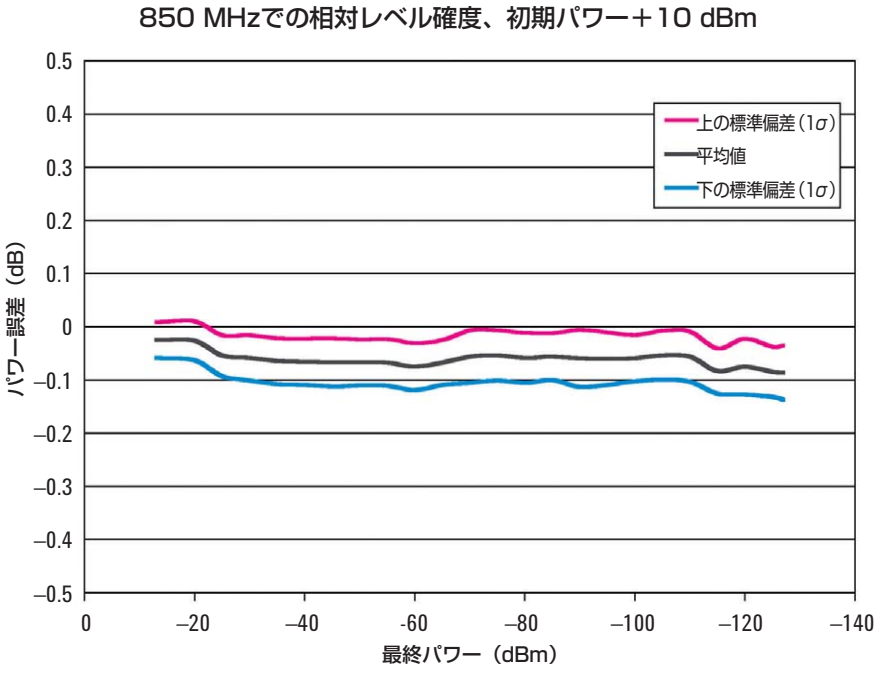


－140 dBmでのレベル確度



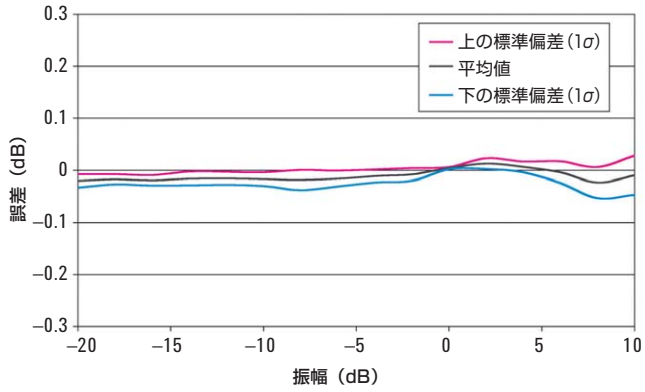


再現性は、他の任意の周波数およびパワー設定へのランダムな変化の後で、与えられたパワー設定に機器が戻る能力を測定します。絶対レベル確度と混同しないでください。

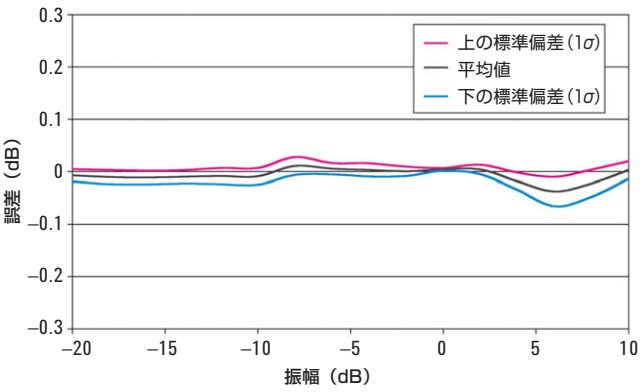


相対レベル確度は、任意のパワー・レベルから他の任意のパワー・レベルへのステップ変化の確度を測定します。これは大きい変化（5 dBステップなど）に対して有効です。

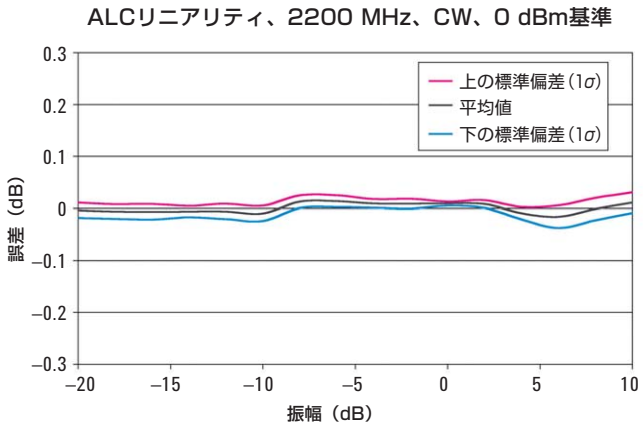
ALCリニアリティ、850 MHz、CW、0 dBm基準



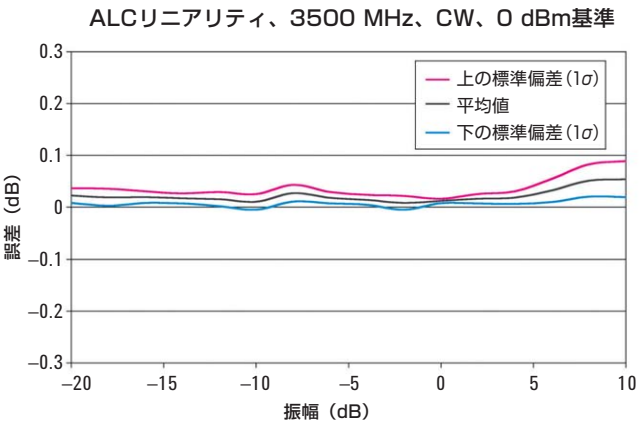
ALCリニアリティ、1900 MHz、CW、0 dBm基準



ALCリニアリティ、2200 MHz、CW、0 dBm基準

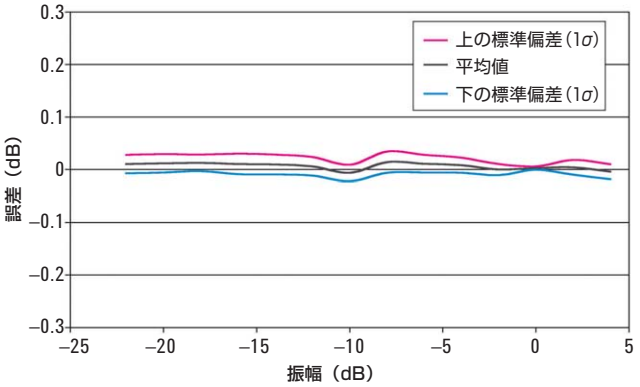


ALCリニアリティ、3500 MHz、CW、0 dBm基準



リニアリティは、アッテネータが定常状態にある間の小さい変化の確度を測定します。これは細かい変化に対して有効です。

ALCリニアリティ、5800 MHz、CW、0 dBm基準



ユーザ・フラットネス補正

ポイント数	1601
テーブル数	機器の使用可能空きメモリに依存

デジタル掃引モード

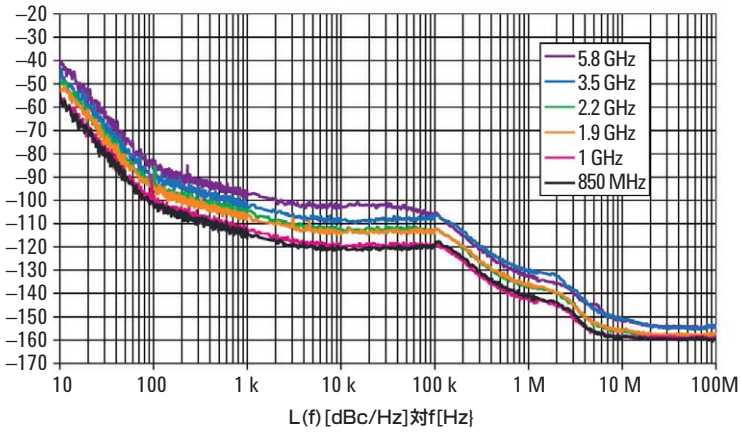
動作モード	ステップ掃引（等間隔の振幅ステップ） リスト掃引（振幅ステップの任意リスト） 周波数も同時掃引可能 詳細については周波数の項を参照
掃引範囲	機器振幅レンジ内
待ち時間	100 μs～100 s
ポイント数	2～65535（ステップ掃引）　1～1601（リスト掃引）
ステップ変化	リニア
トリガ	フリーラン、トリガ・キー、外部、タイマ、バス（GPIB、LAN、USB）

信号純度

単側波帯位相雑音 [20 kHzオフセット]

500 MHz	≦－126 dBc/Hz（代表値）	3 GHz	≦－110 dBc/Hz（代表値）
1 GHz	≦－121 dBc/Hz（代表値）	4 GHz	≦－109 dBc/Hz（代表値）
2 GHz	≦－115 dBc/Hz（代表値）	6 GHz	≦－104 dBc/Hz（代表値）

CWモードの単側波帯位相雑音



L(f) [dBc/Hz]対f[Hz]

残留FM [CWモード、300 Hz～3 kHz帯域幅、CCITT、rμs]　＜N×2 Hz（代表値）

高調波[1] [CWモード、出力レベル＜4 dBm]

250 kHz～3 GHz	＜－30 dBc
＞3 GHz～6 GHz	＜－44 dBc（代表値）

非高調波[1] [CWモード]

	＞10 kHzオフセット
250 kHz～250 MHz	＜－54 dBc、＜－70 dBc（代表値）
＞250 MHz～375 MHz	＜－61 dBc、＜－81 dBc（代表値）
＞375 MHz～750 MHz	＜－55 dBc、＜－73 dBc（代表値）
＞750 MHz～1.5 GHz	＜－48 dBc、＜－62 dBc（代表値）
＞1.5 GHz～3 GHz	＜－48 dBc、＜－62 dBc（代表値）
＞3 GHz～6 GHz	≦－42 dBc、＜－56 dBc（代表値）

サブハーモニクス[1] [CWモード]

250 kHz～4 GHz	＜－76 dBc
＞4 GHz～5 GHz	＜－64 dBc
＞5 GHz～5.5 GHz	＜－50 dBc
＞5.5 GHz～6 GHz	＜－46 dBc

ジッタ：[2]

搬送波	SONET/SDH			
周波数	**データ・レート**	**RMSジッタ帯域幅**	**uUI rms**	**フェムト秒**
155 MHz	155 MB/s	100 Hz～1.5 MHz	84	537
622 MHz	155 MB/s	1 kHz～5 MHz	47	75
2.488 GHz	2488 MB/s	5 kHz～20 MHz	178	72

1. 機器の周波数レンジ外の高調波、サブハーモニクス、非高調波は代表値。
2. ＋10 dBmでのCWモードの位相雑音性能から計算。その他の周波数、データ・レート、帯域幅については、計測お客様窓口までお問い合わせください。

アナログ変調

周波数変調

（オプションUNT）

最大偏移	N×20 MHz（公称値）
分解能	偏移の0.1 %または1 Hzのうち大きい方（公称値）
偏移確度	
[1 kHzレート、偏移は N×100 kHz]	＜±2 %＋20 Hz

変調周波数応答 [100 kHz偏移]

	1 dB帯域幅	3 dB帯域幅
DC結合	DC～3 MHz（公称値）	DC～7 MHz（公称値）
AC結合	5 Hz～3 MHz（公称値）	5 Hz～7 MHz（公称値）
搬送波周波数確度 DCFMのCW基準		＜±設定偏移の0.2 %＋（N×1 Hz）[1]
		＜±設定偏移の0.06 %＋（N×1 Hz）（代表値）[2]
歪み [1 kHzレート、偏移はN×100 kHz]		＜0.4 %
外部入力使用時の感度		表示された偏移に対して＋1 Vピーク（公称値）

位相変調

（オプションUNT）

変調偏移および周波数応答：

	最大偏移	3 dB帯域幅
通常帯域幅	N×10ラジアン（公称値）	DC～1 MHz（公称値）
広帯域幅モード	N×1ラジアン（公称値）	DC～4 MHz（公称値）
分解能	偏移の0.1 %（公称値）	

偏移確度 [1 kHzレート、通常帯域幅モード]	＜＋0.5 %＋0.01ラジアン（代表値）
歪み [1 kHzレート、偏移通常帯域幅モード]	＜0.2 %（代表値）
外部入力使用時の感度	表示された偏移に対して＋1 Vピーク（公称値）

振幅変調[3]

（オプションUNT）

AM変調度タイプ	リニアまたは指数
変調度	
最大	90 %
分解能	変調度の0.1 %（公称値）
変調度確度 [1 kHzレート]	＜±（設定の4 %＋1 %）（代表値）
変調レート [3 dB帯域幅]	
DC結合	0～10 kHz（代表値）
AC結合	5 Hz～10 kHz（代表値）
歪み [1 kHzレート]	＜2 %（代表値）
外部入力使用時の感度	表示された変調度に対して＋1 Vピーク（公称値）

1. 仕様は前回のDCFM校正から±5 ℃未満の温度変化に対して有効。
2. DCFM校正直後の代表的性能。
3. AM仕様は、搬送波周波数500 kHz～3 GHz、パワー・レベル≦±4 dBm、変調度≦90 %で有効。

パルス変調

（オプションUNU）[1]

オン／オフ比	＞80 dB（代表値）
立ち上がり時間	＜50 ns（代表値）
立ち下がり時間	＜50 ns（代表値）
最小幅	
ALCオン	≧2 µs（代表値）
ALCオフ	≧500 ns
分解能	20 ns（公称値）
パルス繰り返し周波数	
ALCオン	DC～500 kHz
ALCオフ	DC～2 MHz
レベル確度	＜1 dB（代表値）
（CW基準、ALCオンまたはオフ）	
ビデオ・フィードスルー	＜350 mV（代表値）
パルス・オーバシュート	＜15 %（代表値）
パルス圧縮	15 ns（代表値）
パルス遅延	
RF遅延（ビデオ－RF出力間）	10 ns（公称値）
ビデオ遅延（外部入力－ビデオ間）	30 ns（公称値）
外部入力	
入力インピーダンス	50 Ω（公称値）
レベル	＋1 Vピーク＝オン（公称値）
内蔵パルス・ジェネレータ	
モード	フリーラン、方形、トリガ、調整可能ダブレット、トリガ・ダブレット、ゲート、外部パルス
方形波レート	0.1 Hz～10 MHz、0.1 Hz分解能（公称値）
パルス周期	500 ns～42 s（公称値）
パルス幅	500 ns～パルス周期－10 ns（公称値）
分解能	10 ns（公称値）
調整可能トリガ遅延：	－パルス周期＋10 ns～パルス周期～パルス幅－10 ns
設定可能遅延	
フリーラン	－3.99 µs～3.97 µs
トリガ	0～40 s
分解能	
［遅延、幅、周期］	10 ns（公称値）
ダブル・パルス	
第1パルス遅延（同期出力基準）	0～42 s－パルス幅－10 ns
第1パルス幅	500 ns～42 s－遅延－10 ns
第2パルス遅延（パルス1基準）	0～42 s－（遅延1＋幅2）－10 ns
第2パルス幅	20 ns～42 s－（遅延1＋遅延2）－10 ns

高速パルス変調

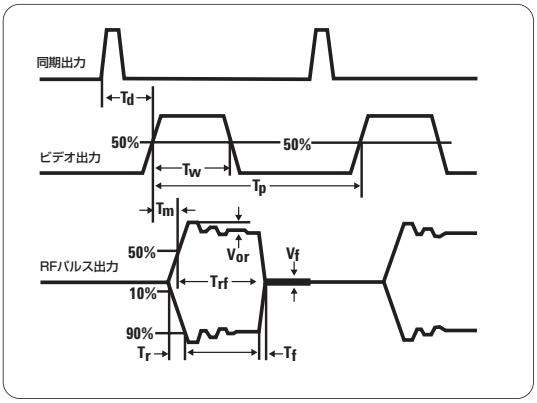
（オプションUNW）[1]

	500 MHz～3.0 GHz	＞3.0 GHz
オン／オフ比	＞80 dB（代表値）	＞80 dB（代表値）
立上がり／立下がり時間（Tr、Tf）	＜10 ns（7 ns）	＜10 ns（7 ns）
最小パルス幅		
内部レベリング	≧2 µs（代表値）	≧2 µs（代表値）
ALCオフ[2]	≧20 ns（代表値）	≧20 ns（代表値）

1. パルス仕様は周波数＞500 MHzの場合に適用されます。10 MHzまで動作可能です。
2. パワー・サーチはオンです。

	500 MHz～3.0 GHz	＞3.0 GHz
繰り返し周波数		
内部レベリング	10 Hz～500 kHz	10 Hz～500 kHz
ALCオフ[1]	DC～5 MHz	DC～10 MHz
レベル確度（CWを基準）		
内部レベリング	＜±1.0 dB	＜±1.0 dB
ALCオフ[1]	＜±1.0 dB（代表値）	＜±1.0 dB（代表値）
幅圧縮	＜5 ns（代表値）	＜5 ns（代表値）
（ビデオ出力を基準にしたRF幅）		
ビデオ・フィードスルー[2]	＜250 mV（代表値）	＜10 mV（代表値）
ビデオ遅延（外部入力－ビデオ間）	20 ns（公称値）	20 ns（公称値）
RF遅延（ビデオ－RF出力間）	10 ns（公称値）	10 ns（公称値）
パルス・オーバシュート	＜15 %（代表値）	＜15 %（代表値）
入力レベル	＋1 Vpeak＝RFオン	＋1 Vpeak＝RFオン
入力インピーダンス	50 Ω（公称値）	50 Ω（公称値）

Td ビデオ遅延（変数）
Tw ビデオ・パルス幅（変数）
Tp パルス周期（変数）
Tm RF遅延
Trf RFパルス幅
Tf RFパルスの立下がり時間
Tr RFパルスの立上がり時間
Vor パルスのオーバシュート
Vf ビデオ・フィードスルー



内蔵アナログ変調源

（オプションUNT）

波形	正弦波
レート範囲	100 mHz～2 MHz
分解能	1 mHz
周波数確度RF基準信号源と同じ（公称値）	

外部変調入力

変調タイプ：	FM、AM、位相変調、パルス変調
入力インピーダンス	50 Ω（公称値）

同時変調[3]

すべての変調タイプ（FM、AM、ϕM、パルス変調）は、次の場合を除いて同時に有効にできます。FMと位相変調を組み合わせることはできません。この2つの変調タイプは同じ変調源を使って同時に発生できません。例えば、AMとFMを同時に有効にして出力RFを変調することができます。これは信号の劣化をシミュレートする際に便利です。

1. パワー・サーチはオンです。
2. ビデオ・フィードスルーは、＜＋10 dBmのパワー・レベルに適用されます。
3. AMまたはパルス変調をオンにした場合は、位相およびFM仕様は適用されません。

一般特性

リモート・プログラミング

インタフェース	GPIB	IEEE-488.2、1987（リスン／トーク）
	LAN	100BaseT LANインタフェース LXI class C準拠
	USB	バージョン2.0
言語	SCPI	バージョン1997.0

共通コマンドのサブセットをサポートする互換言語[1]

Agilent Technologies	E4438C、E4428C、E442xB、E443xB、E8241A、 E8244A、E8251A、E8254A、E8247C、E8257C/D、 E8267C/D、8648シリーズ、8656B、E8663B、8657A/B
Aeroflex Incorporated	3410シリーズ
Rohde & Schwarz	SMU200A、SMJ100A、SMATE200A、SMIQ、SML、SMV

消費電力
100～120 Vac、50～60 Hz
220～240 Vac、50～60 Hz
最大250 W

動作温度
0～55 ℃

保管温度
－40～70 ℃

動作／保管高度
約4572 m

環境ストレス
Agilent Environmental Test Manualに基づいて、本製品のサンプルを対象とした型式試験が行われ、保管、輸送、使用の環境ストレスに耐えられることが検証されています。これらのストレスには、温度、湿度、衝撃、振動、高度、電源条件が含まれますが、これに限定されません。テスト方法はIEC 60068-2に準じ、レベルはMIL-PRF-28800Fクラス3と同様です。

安全性
欧州低電圧指令73/23/EEC（93/68/EECにより修正）に適合
- IEC/EN 61010-1
- カナダ：CSA C22.2 No. 61010-1
- 米国：UL 61010-1

EMC
欧州EMC指令89/336/EEC（93/68/EECにより修正）に適合
- IEC/EN 61326
- CISPR Pub 11グループ1、クラスA
- AS/NZS CISPR 11:2002
- ICES/NMB-001

メモリ
メモリは、機器ステート、掃引リスト・ファイル、その他のファイルの間で共通に使用されます。N5181A MXGには512 MBのフラッシュ・メモリが搭載されています。メモリの利用状況に応じて、最大1000個の機器ステートを保存できます。

セキュリティ（オプション006）
メモリ・クリア、電源投入時のメモリ・クリア、ディスプレイの消去

セルフテスト
内部診断ルーチンがほとんどのモジュールをプリセット条件でテストします。各モジュールに対して、ノード電圧が許容範囲内にある場合、モジュールはテストに合格します。

1. ファームウェア・バージョンA.01.10以上。

質量	正味≦12.5 kg、輸送時≦27.2 kg
外形寸法	高さ103 mm×幅426 mm×奥行き432 mm
推奨校正サイクル	24ヶ月
ISO適合	Agilent N5181A MXGは、ISO-9001登録済み工場で、Agilentの高い品質基準に従って製造されています。

フロント・パネル・コネクタ[1]

RF出力	精密N形（メス）コネクタを通じてRF信号を出力します。
USB 2.0	USBメモリを使って、機器ステート、ライセンス、その他のファイルを機器との間で転送するために使用できます。ライセンスは機器への転送のみ可能です。現在サポートされているメモリ･スティックについては、**www.agilent.co.jp/find/MXG**を開き、テクニカル・サポートをクリックして、FAQ:Waveform Downloads and Storageを参照してください。

リア・パネル・コネクタ[1]

RF出力（オプション1EM）	精密N形（メス）コネクタを通じてRF信号を出力します。
掃引出力	信号発生器の掃引中に0～＋10 Vの出力電圧を発生します。この出力は、信号源のセトリングまたはパルス・ビデオを示すようにプログラムでき、このモードではTTLおよびCMOS互換です。出力インピーダンス<1 Ω、2 kΩをドライブ可能。損傷レベルは±15 V。
AM	外部AM入力。公称入力インピーダンスは50 Ω。損傷レベルは±5 V。
FM	外部FM入力。公称入力インピーダンスは50 Ω。損傷レベルは±5 V。
パルス	外部パルス変調入力この入力はTTLおよびCMOS互換です。ロー・ロジック・レベルは0 V、ハイ・ロジック・レベルは＋1 V。公称入力インピーダンスは50 Ω。入力損傷レベルは≦－0.3 Vおよび≧＋5.3 V。

1. 特に注記がない限り、コネクタはすべてBNCです。

トリガ入力	掃引モードのポイントツーポイント・トリガのためのTTLおよびCMOSレベル信号を入力します。 損傷レベルは≦－0.3 Vおよび≧＋5.3 V。
トリガ出力	掃引モードで使用するTTLおよびCMOS互換レベル信号を出力します。この信号がハイになるのは、待ち時間の開始時または、手動掃引モードでポイント・トリガを待っているときです。ローになるのは、待ち時間の終了時または、ポイント・トリガを受信したときです。この出力は、信号源のセトリング、パルス同期、パルス・ビデオのいずれかを示すようにプログラムできます。公称出力インピーダンスは50 Ω。 入力損傷レベルは≦－0.3 Vおよび≧＋5.3 V。
基準入力	内部タイムベースの周波数ロックに用いられる10 MHz基準信号を入力します。オプション1ERは、周波数を1 MHz～50 MHzの範囲でロックする機能を追加します。 公称入力レベルは－3.5～＋20 dBm、インピーダンスは50 Ω。
10 MHz出力	内部タイムベースが使用する10 MHz基準信号を出力します。 公称レベルは＋3.9 dBm。公称出力インピーダンスは50 Ω。 入力損傷レベルは＋16 dBm。
USB 2.0	USBコネクタは、SCPI経由のリモート・プログラミング機能を提供します。
LAN（100 BaseT）	LANコネクタは、GPIBコネクタと同じSCPIリモート・プログラミング機能を提供します。LANコネクタはまた、内蔵WebサーバおよびFTPサーバへのアクセスにも用いられます。 LANは、DHCP、ソケットSCPI、VXI-11 SCPI、接続モニタ、動的ホスト名サービス、TCPキープアライブをサポートします。 このインタフェースはLXI class C準拠です。
GPIB	GPIBコネクタは、SCPI経由のリモート・プログラミング機能を提供します。

オーダ情報

周波数	501	周波数レンジ100 kHz～1 GHz
	503	周波数レンジ100 kHz～3 GHz
	506	周波数レンジ100 kHz～6 GHz
性能拡張	UNZ	高速スイッチング
	1EQ	ロー・パワー（＜－110 dBm）
	UNU	パルス変調
	UNW	高速パルス変調
	UNT	AM、FM、位相変調
	006	機器セキュリティ
	1ER	フレキシブル基準入力（1～50 MHz）
	1EM	RF出力をリア・パネルに移動
	UK6	校正証明書およびテスト・データ
アクセサリ	1CM	ラックマウント・キット
	1CN	フロント・ハンドル・キット
	1CP	ラックマウント／フロント・ハンドル・キット
	1CR	ラック・スライド・キット
	ATX	搬送用ケース

関連カタログ

アプリケーション・カタログ

- 『RF Source Basics, a self-paced tutorial（CD-ROM）』、カタログ番号5980-2060E
- 『スループットを向上させるRF信号源の高速スイッチング』、
  カタログ番号5989-5487JAJP
- 『通信システムのデジタル変調 入門編』、Application Note 1298、
  カタログ番号5965-7160J
- 『CDMA基地局用アンプの試験』、Application Note 1307、
  カタログ番号5967-5486J

製品カタログ

- 『Agilent MXG信号発生器』、Brochure、カタログ番号5989-5074JAJP
- 『Agilent MXG信号発生器』、Configuration Guide、カタログ番号5989-5485JAJP
- 『N5182A MXGベクトル信号発生器』、Data Sheet、カタログ番号5989-5261JAJP

Agilent MXG Webページ

www.agilent.co.jp/find/MXG

電子計測UPDATE

www.agilent.co.jp/find/emailupdates-Japan

Agilentからの最新情報を記載した電子メールを無料でお送りします。

Agilent Open

www.agilent.co.jp/find/open

Agilentは、テスト・システムの接続とプログラミングのプロセスを簡素化することにより、電子製品の設計、検証、製造に携わるエンジニアを支援します。Agilentの広範囲のシステム対応測定器、オープン・インダストリ・ソフトウェア、PC標準I/O、ワールドワイドのサポートは、テスト・システムの開発を加速します。

LXI

www.lxistandard.org

LXIはGPIBのLANベースの後継インタフェースで、より高速で効率的なコネクティビティを提供します。AgilentはLXI Consortiumの設立メンバです。

Remove all doubt

アジレント・テクノロジーでは、柔軟性の高い高品質な校正サービスと、お客様のニーズに応じた修理サービスを提供することで、お使いの測定機器を最高標準に保つお手伝いをしています。お預かりした機器をお約束どおりのパフォーマンスにすることはもちろん、そのサービスをお約束した期日までに確実にお届けします。熟練した技術者、最新の校正試験プログラム、自動化された故障診断、純正部品によるサポートなど、アジレント・テクノロジーの校正・修理サービスは、いつも安心で信頼できる測定結果をお客様に提供します。

また、お客様それぞれの技術的なご要望やビジネスのご要望に応じて、
・アプリケーション・サポート
・システム・インテグレーション
・導入時のスタート・アップ・サービス
・教育サービス
など、専門的なテストおよび測定サービスも提供しております。

世界各地の経験豊富なアジレント・テクノロジーのエンジニアが、お客様の生産性の向上、設備投資の回収率の最大化、測定器のメインテナンスをサポートいたします。詳しくは：

www.agilent.co.jp/find/removealldoubt

アジレント・テクノロジー株式会社

本社〒192-8510 東京都八王子市高倉町9-1

計測お客様窓口

受付時間 9:00-19:00（土・日・祭日を除く）

FAX、E-mail、Webは24時間受け付けています。

TEL ■■ 0120-421-345
(042-656-7832)

FAX■■ 0120-421-678
(042-656-7840)

Email contact_japan@agilent.com

電子計測ホームページ
www.agilent.co.jp

● 記載事項は変更になる場合があります。
ご発注の際はご確認ください。

Copyright 2008
アジレント・テクノロジー株式会社

Agilent Technologies

January 11, 2008
5989-5311JAJP
0000-00DEP